

9.防災計画・法規チェック

(1)防災計画

- ・自然災害時においても継続して医療機能を維持するため、安全性・耐震性を確保した建物とします。
- ・水害・地震等、各災害に応じた施設計画とし、エネルギー供給の維持と適切な備蓄計画を図るとともに、日常の利便性にも配慮します。

防災計画における留意点

① 水害時を想定した計画

- ・市立美唄病院周辺の浸水深の詳細データによれば、新病院の1FLを地盤高23.8mと設定した場合、浸水深は正面玄関付近で59cm、その他の出入口付近でも50cm前後となっています。浸水対策として、出入口に60cm程度の防水板の設置、窓の下端を60cm以上とする、別棟は地盤から60cmまで鉄筋コンクリート造の壁にするなど検討します。
- ・設備機械室や受変電設備・非常用発電機は2階、PH階に計画することで、室内への浸水を防ぎます。

② 耐震性能の確保

- ・大地震後に構造体の補修をすることなく建築物を使用し、また、医療機器等の倒壊による病院機能喪失を防ぐため重要度係数1.5の耐震構造を採用します。
- ・建築非構造部材である、天井材、照明器具、窓ガラス・窓枠、外壁仕上材、内装材、収納棚などは、大地震動後、災害応急対策活動や被災者の受け入れの円滑な実施、または危険物の管理の上で損傷、移動等が発生しないことを目標とし、人命の安全確保に加えて十分な機能確保を図る設計とします。
- ・建築設備である、配管、ダクト、ケーブルラック、キュービクル、発電機、ボイラーなどは、大地震動後の人命の安全確保及び二次災害の防止が図られているとともに、大きな補修をすることなく、必要な設備機能を相当期間継続できることを目的として設計とします。

③ 災害時の診療スペースの確保

災害時における緊急的患者収容スペースとして、外来待合・エントランスホール等を想定し、必要な場所については酸素・医療ガス等の配管設備、非常用電源を設置します。

④ 防災計画上的特徴

- ・階段室は分散配置し、平面上のどの位置でも確実に2方向避難のできる平面計画とします。
- ・3階病棟階は籠城区画を自主設置します。ある区画で火災が発生した場合、他の区画へ水平避難して鎮火を待ち、状況に応じてその区画内の階段で、垂直に避難できるように計画します。

⑤ 災害時の対応

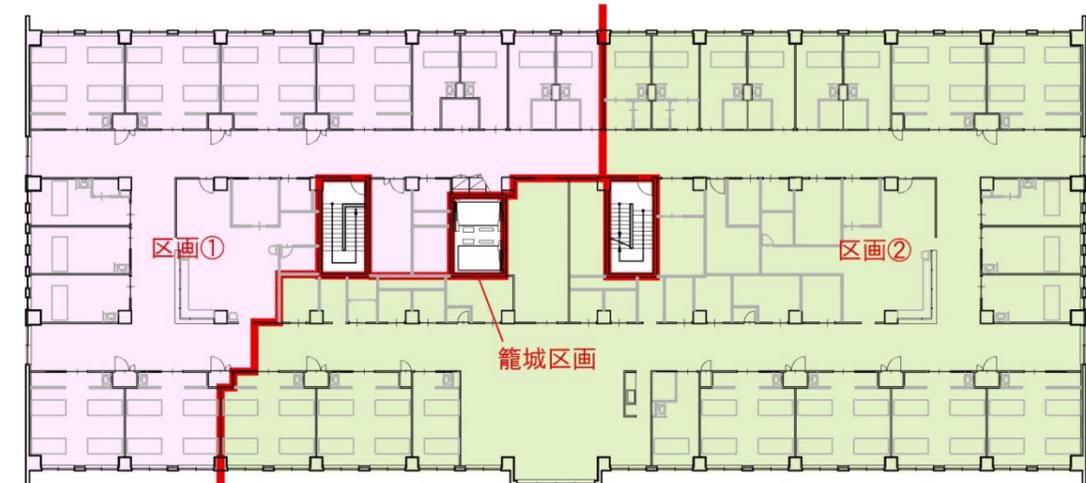
- ・24時間対応のエネルギーインフラ（電気、給水、排水、熱源）
- ・電気関連：非常用発電機（防災拠点用）の設置、共用部における非常用電源コンセントの配備
- ・通信関連：多種類・多仕様の通信インフラ（通信業者や通信方式）へのスペース対応
- ・給水関連：水槽車対応の受水槽
- ・排水関連：排水管損傷時の復旧時間短縮、汚水槽（3日分）
- ・熱源関連：電気（迅速な復旧）+灯油（備蓄）の複合熱源
- ・給油関連：災害時は地上式オイルタンクの全てのバルブを開放して非常用発電機の燃料を確保。
また、燃料を灯油とすることで、緊急時用ポータブル機器に対応
- ・医療ガス：災害対応スペースにおける医療ガスコンセントの配備



脱着式防水板イメージ
浸水の恐れがあるときにアルミ防水板をはめ込み、水の親友を防ぐ

籠城区画

建築基準法上は、床面積を勘案すると3階を区画する必要はない。
今回の計画では避難が困難な患者が多数いると想定し、籠城区画を計画する。
区画①で火災が発生した場合、区画②へ水平避難して鎮火を待ち、状況に応じてその区画②内の階段で、垂直に避難できるように計画とする。



3階平面図